

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201280		
法人名	社会福祉法人 葉港会		
事業所名	グループホーム 春日スプリング・ガーデン		
所在地	長崎県佐世保市春日町716-8		
自己評価作成日	平成 31年 2月 5日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 2月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から近い、国道から少し入った斜面地に立地し、交通アクセスも良く、なおかつ自然にも囲まれて静かな環境が保たれていますので、ゆったりとした個々の時間を過ごすことができるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市春日町にある当ホームは同市の中心部から車で5分程の高台に位置している。また、住宅地の一面に立地しており、隣接する駐車場も広く確保し、家族の面会時はもちろんのこと近隣住民の一時的な使用にも快く提供されている。理事長や管理者も含めて職員は年齢や性別、勤続年数といったことでの隔たりがなく、風通しの良い職場環境の整備に努められている。職員間の協力体制についてもできており、日々の介護実践に繋がられている。ホームには「ふれあい箱」を設置し、来訪者や家族の要望にも柔軟に対応するよう取り組むとともに、外部評価時のアンケート結果を運営推進委員会に諮り、ホームの運営に活かすよう努められている。系列事業所である特別養護老人ホーム、生活支援ハウス、小規模多機能ホームのほか、各種の地域資源とネットワークを構築し地域との関係性を深められており、地域住民にとっても頼りがいや安心感のある事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループホーム春日スプリングガーデン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に入居者が地域の中で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支えるために理念をつくりあげている。	ホームでは朝礼時に理念の唱和を行い、職員の意識向上を図っている。管理者は参加した研修の中で理念の本質を再認識し、理念に込められた思いを職員に伝えている。職員は入居者一人ひとりの思いを尊重した支援に取り組んでいる。	職員は基本理念に基づく支援の実践に取り組んでいるが、更なる理念の実践に向けた取り組みが望まれる。例えば、ホームとしての年度目標や職員一人ひとりが理念に沿った目標を設定するなど、理念の実践に繋げる今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方と情報交換を行ないます。地域の小学生や中学生と年間を通して交流会を行い、運動会、入学式、卒業式にも案内が来れば見に行くようにしています。	ホームには、地区内ダンススクールの子ども達による慰問や小・中学校及び地域主催の各種行事への参加などを通して、地域住民との交流に積極的に取り組まれている。また、近隣住民からのホーム駐車場を開放して欲しいとの要望に応えるなど地域からの信頼も得られていることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイト養成研修や認知症ケア専門士等の資格を積極的に取得し、認知症の方への理解をめ、地域の人々へ理解していただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。現状報告をしながら参加者の意見を伺いサービス向上に向けて前向きに取り組んでいます。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員からの情報提供やホーム行事について地域代表へ協力を仰ぐなど、活発な意見交換がなされている。ホーム内でのヒヤリハットについても報告がなされており、参加メンバーからの意見を伺いサービス向上に向けて取り組んでいる。議事録については家族や欠席したメンバーへ議事録の配布を行っており、運営の透明性に努められている。	ホームでは運営推進会議議事録を家族や欠席したメンバーに送付し内容の周知が図られているものの、職員の周知状況については課題が窺われる。今後、職員間での議事録の回覧を行うなど、理解や周知に向けた更なる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター定期的に連絡を取り合っている。地域ケア会議等にも出席しています。	運営推進会議メンバーである地域包括支援センター職員から空室や入居相談の問い合わせがあるほか、情報提供を受けるなどの連携を図っており、そこで得られた情報をホーム運営に反映している。また、必要に応じて市長寿社会課や福祉課にも相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束の研修の修了証マニュアルを作り、職員へ伝えています。常に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	ホームでは現在、身体拘束に該当する入居者はいない。身体拘束廃止に向けた指針の整備やホーム独自のマニュアルを作成しており、ホームでの職員研修も定期的実施されている。また、やむを得ず身体拘束をせざるを得ない場合に備え、家族への同意書を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体的だけでなく、精神的虐待にも注意し、研修にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修に行き、職員全体で情報を共有するように社内研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、ご家族の方が理解、納得されるまで説明を行い、同意を得た上で、署名と捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあい箱設置により、お客様やご家族の意見や苦情を書くことができ、毎年一回の外部評価によりアンケートをとった結果を運営推進委員会で話し合っています。	ホームでは行政や第三者相談窓口について契約書に記載し、入居契約時に説明している。家族より身体状況悪化でのエアマット使用の要望を受け、家族を交え善後策を検討し、当該内容の介護経過への記録を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった場合には、随時報告を受け、可能な限り反映させています。	ホームでは職員会議を2～3ヶ月毎に開催しているが、必要時にはその都度開催し意見交換を行っている。職員個別の意見についても、理事長が細目にホームを訪問し、意見を聴く機会を設けている。また、職員の希望休や勤務交替などについては事前に調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように直接労務士さんと相談し、職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、可能な限り外部への研修への参加を推奨しています。新人研修、全職員研修は職員互助会とも協議しながら適宜実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修会を企画し、勉強することで、技術向上や、同業者との交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、困っていることを聞き出す為には数回の面接を繰り返すこともあり、予測できる事は契約時に十分説明しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や電話での話し合いを重ねたり、施設見学の折に家族の不安や思いを受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心から信頼していただくように努め、他のサービス利用も視野に入れながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム専用スペースに閉じこもらず、レストランやソファで他のお客様や、職員を交えて団欒の場を提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし、出来るだけご家族と共にお客様のパートナーとして良好な関係を作るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも続けてきたご家族との散歩や、近所へ顔なじみの店へ買い物に行けるように家族にも支援しています。	ホームでは入居者のこれまでの情報を入居者本人及び家族から聴き取り、生活歴を収集して支援に活かすよう努めている。入居者が家族行事に参加する際には基本的に家族が対応されている。尚、その際に聴き取った情報を記録に残すとともに、職員と情報共有し更なる支援に結び付けていくことに期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は良好で、ゆったりと過ごされています。職員もお茶を飲んだりしてお客様同士の関係が円滑になるように働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度関わったお客様なので、お付き合いを大切に、引き続き相談や遊びに来てもらえるように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を大切に、要望に沿った支援をするようにしています。家族からも情報を得ることでよりお客様の意向を把握出来るように努めています。	意思表示が困難な入居者の思いについては、家族や関係者から生活歴を聴き、申し送りノートや経過記録に記入し職員間での共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から得た情報をご本人のご希望に沿ってその人らしく生活できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、入居者一人一人の一日の様子を申し送り等の中で把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から意見を聞いて担当者会議を開き、全員でそれぞれのアイデアを出し合い、介護計画に反映しています。	介護計画は、介護支援専門員が事前に入居者本人やその家族から意見を聴き取り、職員の意見も聞いた上で作成している。ホームでは入居者本人の気持ちを最優先に、家族の意向も反映した計画作成に努めている。尚、本人や家族の意見について介護計画書に更に具体的に記載することに期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化を記録しています。状態の変化については情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の要望に合わせ、相談や、話し合いを行い、柔軟に対応しています。訪問美容等もご利用できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さん等と定期的に情報交換を行ない、安心して過ごせるように心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、お客様やご家族の希望されるかかりつけ医があればご家族と協力し、通院介助も行なっています。必要時には訪問診療を受けています。	ホームでは提携医から2週間に1度、皮膚科については月に1度、歯科については随時往診がある。職員は受診の際、健康保険証とともに必要に応じて経過記録も持参している。容態急変時には提携医の指示を仰ぎ、臨機応変に対応できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理に応じた支援が行なえるように配慮し近隣の協力医や看護師との連携も取れており相談できる体制が確保されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態把握を行い、医療機関との連携が図れるように配慮しています。また、ご家族とも話し合いながら退院の支援を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の意向を大事にししながら、職員同士で終末期について考え、協力医とも相談できる体制を整えています。	ホームでは入居契約時に看取りについて説明を行っており、看取りの指針についても契約書に綴じて本人及び家族の同意を得ている。また、主治医による看取り期の指示があった際には再度家族の意向を確認し、必要に応じ訪問看護の利用も行っている。ホームでは看取りに関する内部研修を管理者が主となって実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、急変時に備えて研修を行い、円滑な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な消防訓練により、災害時の対応が円滑にできるように努めています。	ホームでは平成28年7月に行われた総合訓練以降の避難訓練が未実施の状況にある。緊急時対応マニュアルについては作成されているものの、職員の役割分担について意識付けや初期消火の訓練の必要性も窺われる。管理者も消防署立ち会いによる入居者も参加した訓練の必要性を感じており、現在、実施に向けて検討されている。	当ホームが要配慮者利用施設であることを踏まえ、計画的な訓練実施が不可欠と言える。今後、定期的に消防署立ち会いでの避難訓練を実施するとともに、職員による消火器操作もできるよう訓練に取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分配慮し、日常生活においても自尊心や、プライバシーを守るように職員の意識向上を図っています。	管理者は参加した研修会で学んだことをホーム内部での研修会で説明・伝達し、職員の各種支援時の声掛けが馴れ馴れしい言葉遣いとならないよう注意を払っている。また、居室へ入室する際にもノックや声掛けをし、入居者のプライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で希望を聞き、いくつかの選択肢の中から自分で決められる場面を作るように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師訪問があり、入居者のご希望やご家族の希望により、カットのサービスをご利用いただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食やメニューも豊富なのでとても楽しみにされています。食事の話題等で楽しい雰囲気のもとで食事が出来ています。	食事は委託業者に依頼されており、衛生面・メニューの豊富さなど外注の優れた点を入居者家族に説明している。また、入居者の嗜好に応じてホーム内で調整を行っている。正月・お盆などには、家族対応にて季節に応じた食事の機会もあるが、ホーム全体での外食の機会は入居者の身体状況の変化に伴い徐々に難しくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回、服薬時チェックし、食事量、内容、形態については、ご本人やご家族、主治医の意見を参考にしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のチェックを行い、利用者の状態に合わせて、歯磨き、義歯の手入れなどの支援を行っています。随時訪問歯科医との連携も図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の一人一人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行なうようにしています。	職員は日中及び夜間帯に応じて入居者それぞれの排泄パターンの把握に努め、定期巡回トイレ誘導を行っている。必要な方にはポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援に努められている。リビングなど他人がいる場面での失禁時の対応についてはさりげなく声掛けを行い、居室や浴室に誘導して支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便状況の確認を行っています。また、自然排便を促すように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧測定、体温を測り、健康状態をみながら、入居者の意向に沿って入浴を支援するように努めています。	ホームでは入居者毎に週2回午前中に入浴を実施している。職員は入浴の拒否や健康状態に応じ、入浴ができない場合は入居者も含めた話し合いを行い調整している。湯温は基本的に40℃としているが、本人の希望に合わせて調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、入居者の体調や生活リズムを整えるように努めています。また、個別に対応して休息できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルして、職員が把握できるようにしています。服薬確認も徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動に参加していただきます。また、散歩に出る等の気分転換を行なうようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい時には散歩に出かけたり、職員と一緒に戸外に出られ、公園の季節の花を見たりされています。	入居者は好天時には職員とともにホーム敷地内の外周を散歩するなど自由に過ごされており、ホーム行事での外出や受診の帰りには買い物に立ち寄るなどの支援がなされている。また、家族による対応にて馴染みの美容室へ行く入居者も窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に金銭管理を御願しております。お買物については一緒に行くなど、買物の希望に沿うように努力しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は常に可能であり、希望があれば支援しています。手紙のやり取りは希望があれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事等の写真を貼ったり、観葉植物を置くなどしています。また、居間にはソファを置いてくつろいでいただけるように配慮しています。	リビング兼食堂は過度な飾り付けにならないよう配慮し、落ち着いた空間となっている。職員は臭いや採光などに配慮し、清掃・換気・消臭剤・カーテンの開閉などで対応されている。過ごしやすい共用空間となっており、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮されていることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子やテーブルを置き、絵画や観葉植物を配置し、居心地の良い環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持ってきていただく等して、安心して過ごしていただけるように配慮しています。	居室は掃き出し窓で陽当たりも良く、職員による室温・湿度の管理がなされ、居心地の良い居室づくりができています。エアコンフィルターも清掃専門の職員が定期的に清掃されている。入居者は馴染みの品など自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には入居者の馴染みの物を活かしています。状態の変化があれば、その都度職員同士で話し合い、自立して生活が送れるように支援しています。		